



学園広報誌「窓」
Vol.195 2025.10.31

みなさまの
想いや支援を
「変えてゆく力」に。

今村保忠理事長・学長インタビュー

3つのテーマで探る
工学院大学の未来

新生「窓」復刊に寄せて



学園創立
150周年に
向かって

新生「窓」 復刊に寄せて

工学院大学「窓」は昭和45年（1970年）に第一号が刊行され、
学園のその時々姿を伝えてまいりました。

記事内容は多岐にわたり、

SNSなどの無い時代では大学の姿をうかがい知る

重要な役割を果たしていたようです。

編集にあたっては、多くの学生、教職員が携わり、

有益ながらもたくさんの労力をかけてきたことが読みとれます。

時々の背景もあり、幾度かの休刊時期をはさみ、

直近では平成29年（2017年）を最後に大学公式サイトを通じた

WEB情報発信で代替してまいりました。

現在、WEBやSNSによるコミュニケーションが中心の時代ではありますが、

この度、紙と文字にまとめるというスタイルの「窓」が復刊することになりました。

学園の出来事を、さまざまなステークホルダーにお伝えしたいという原点に立ち返り、
みなさまに手にとってもらいやすいスタイルをめざす。

このコンセプトの元、これから年に数刊をお届けできればと

編集チームでは考えています。

この先にある、学園創立140周年、150周年を見据えて、

学園関係者の目線が、

多様ながらも同じ方向や夢を持てるようなきっかけにしたい。

そんな願いを表現し、みなさまと共有できればと思います。

ぜひ読者のみなさまから、感想などお寄せくださると嬉しいです。

工学院大学「窓」 編集一同



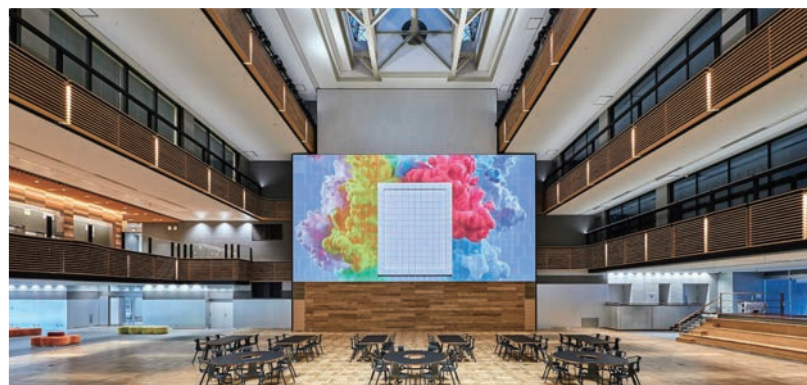
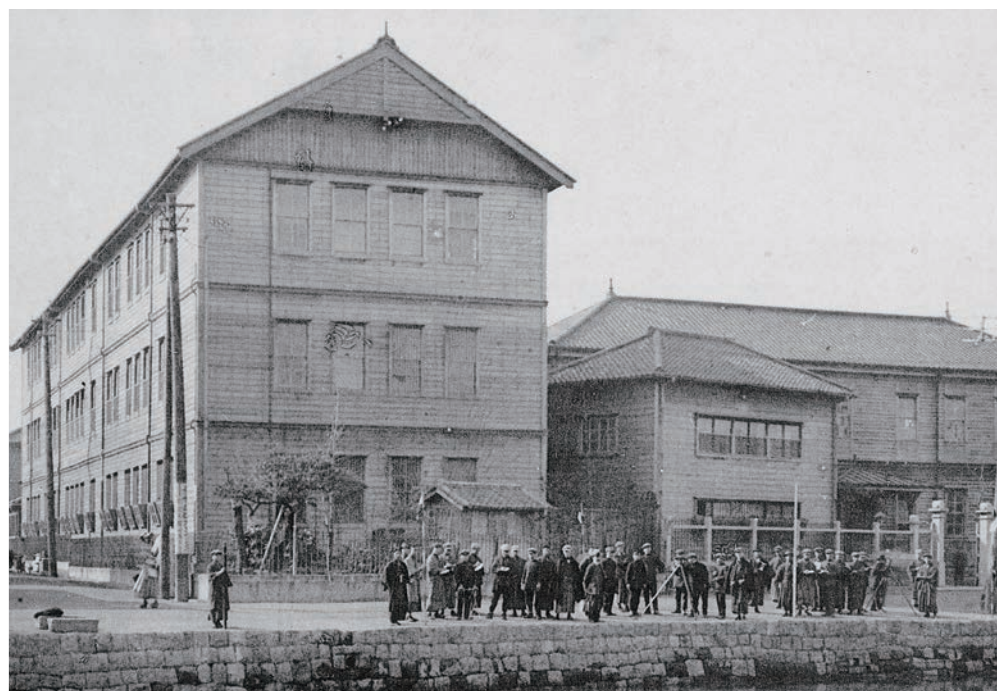
KOGAKUIN
UNIVERSITY
HISTORY
工学院大学 138年の軌跡



Engineering
for the Future



工学院大学八王子校舎開設式



工学院大学
今村理事長・学長
に聞く

みなさまの 想いや支援を 「変えてゆく力」に。

今村保忠 理事長・学長

1959年生まれ。理学博士。国内外での研究活動を経て、2006年に工学院大学に着任。工学部応用化学科および先進工学部生命化学科で教鞭を執り、副学長、先進工学部長、理事を歴任。24年から学長。理事長兼務。

創立140周年、150周年に向け、
これからの本学のあり方を追求。
学園の持続的な発展に
たゆまぬ挑戦と努力を続けてゆく。

激動する社会の中で、
これからの工学院大学に期待されることは、
その変化を感じ取りながら社会の要請に応え、
本学の教育・研究リソースを活かした
新たなカリキュラムやプロジェクトに継続的に取り組むこと。

少子化の進行など社会構造が変化する中、
安定した大学経営を未来へ継承するため、
困難な状況や環境に対する組織づくりが不可欠です。
工学院大学は、2年後の2027年に創立140周年、
12年後の2037年に創立150周年を迎えます。

原点である建学の精神「工の精神」のもと、これらの節目を契機に、
学園のこれからのあり方や価値を再確認してゆきたいと考えています。

創立150周年に向けた工学院大学の新たなスタートとして、
長期目標「VISION150」や中期計画の振り返りと点検を行っています。
学園の持続的な発展に向けて
挑戦と努力を続けてゆく決意を示したいと思います。

同時に、みなさまのお力をお借りして

伝統を大切にしながら、

これからの時代にふさわしい

工学院大学の姿を考えてゆきたいと思います。

今後ともご支援とご協力をいただけますよう、

よろしくお願い申し上げます。

3つのテーマで探る工学院大学の未来

私たち工学院大学は、どんな未来へと進んでゆくのか。めざす大学像について、今村保忠理事長・学長が3つのテーマからお話します。

Theme ① 変化と普遍

大学の主役は、言うまでもなく学生です。これからも、今までと同様、学生が自ら希望する学びや将来を実現できるよう盤石な教育体制を提供してゆきます。守るべきものは守りつつ、変化

する社会の要請に応える教育・研究環境を提供できるよう変革する努力が必要です。社会から「まじめさ」や「勤勉さ」を高く評価されているのが、工学院大学の学生です。これは大学の誇りとするところであり、私たちの学風や文化と呼ぶのであれば、今後も大切にしたいポイントだと思います。同時に、これからの理工系学生には、さまざまなことに対して感受性を持つことも大切にしてほしいと考えています。小さな違いを発見することが、興味や関心の広がり、柔軟な思考、考えを的確に伝える力へとつながっていくのではないかと考えています。私たちの建学の精神にも通じますが、工学とは「役に立つ」ものでなければなりません。しかも、自らの為のみではなく、人や社会の為に役立てることを大きな目的としてほしいと願っています。学びの専門分野と共に、実直さや豊かな感受性を持って、新たな社会の創造に、自らの生き方に、あらゆる可能性を探究できるような人に育ってほしいと考えています。

今村保忠
理事長・学長

まじめ
だけじゃない大学へ

Theme ② 活気ある大学づくり

教育・研究機関として、大学において一番大切にしたいことは、本学に関わるすべての人が元気になること。例えば教員なら新しいカリキュラムづくりや、自らの研究の発展に躊躇しないこと。職員なら、大学運営する上での課題もポジティブに捉え、変革や新たな施策を提案し実践してゆくこと。自らの役割においてさまざまなチャレンジに楽しみながら果敢に取り組むことが期待されます。こうした経験を通じて、成功や達成する喜びも味わい、それが

さらなる本学の活性化につながることを願っております。学生のみなさんには、変化や失敗を恐れず果敢に挑戦する、そんな元気をもち続けてほしい。卒業研究をはじめ大学での4年間は大きく成長できるチャンスにあふれています。私たちは学生たちの挑戦へのサポートを惜しみません。多様なバックグラウンドを持つ学生たちと丁寧に向き合って、学生全員に成長してもらいたいというのは、本学教職員一同の共通した願いです。

すべての人が
元気な大学へ

Theme ③ 参画型の大学づくり

本学の発展をめざすにあたり、学生、教職員、保護者、卒業生、企業や地域の方々など、すべてのステークホルダーであるみなさまとの対話や情報発信に努め、きめ細かなコミュニケーションを行ってゆきたいと考えております。企業や地域社会のみなさんには、日頃の多大なご尽力やご支援に感謝しております。校友会のみなさまは、母校である本学のさらなる飛躍を願っていることでしょう。後援会(学生の父母)のみなさまのネットワークとご支援をいつも心強く感じております。附属中学校・高等学校

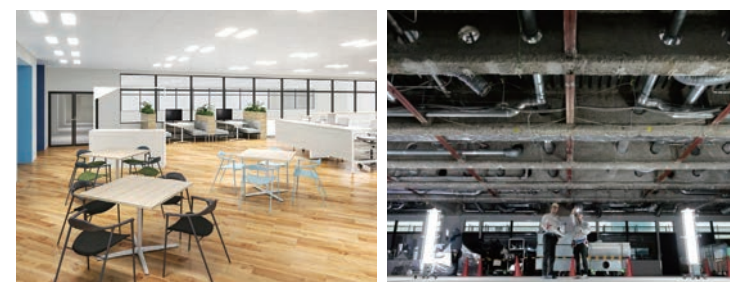
とは今後も連携を強め、次世代の人材育成に努めてゆく所存です。本学に対するさまざまな想いや期待を汲み取り、みなさまの力をお借りして新たな工学院大学をつくりあげてゆきたいと考えておりますので、ぜひお力添えをいただきたく思います。本学のさらなる発展には仕組みづくりとともに、工学院大学へのみなさま方からの愛情も欠かせません。150周年に向けて新たな大学づくりに参画いただき、多くのみなさまから愛される大学となることを願っております。

対話
を
大切にする大学へ

新宿キャンパスがリニューアル

新宿キャンパスは1989年に竣工した、地上29階建て、地下6階の高層ビルキャンパス。学生が安心して学び、研究を行える環境整備に向けて、新宿キャンパスの大規模改修を開始しました。完成は2029年度の見込みです。2025年度からは事務フロアの移転、研究室の仮移転を実施しております。

学生のみなさんが安心・安全に学べることが最大のテーマ。同時にこれから先の新たな教育や研究のあり方、職員の働き方を見据えた環境づくりにも取り組んでゆく機会と考えています。また、建築学部では大規模リノベーションを学びの教材としても活用してゆきます。今後、高層階にある研究室フロアのリニューアル工事や、長周期地震動対策工事も進めてゆきます。新しくなる新宿キャンパスにご期待ください!



数々の困難をチームで乗り越え、 世界最高峰の ソーラーカーレースを完走！



アデレードのゴールで記念撮影

工学院大学ソーラーチームは、2025年8月にオーストラリアで開催された世界最高峰のソーラーカーレース「2025ブリヂストン・ワールドソーラーチャレンジ (BWSC)」に参戦。オーストラリア北部のダーウィンから南部のアデレードまでの約3,000kmの総走行時間を競うこのレースに7号機「CYGNUS(シグナス)」で挑みました。初日は順調な滑り出しで全体14位を記録したものの、途中モーターが故障するトラブルが発生したほか、強風の影響を受けて車体が破損するなどのトラブルにも見舞われました。しかし、最後まで学生のマネジメントとチームワーク、諦めない強い意志によって無事完走。車両の設計・製作、レースドライバーをすべて学生主体で臨んだこの経験を糧に、今後もさらなる挑戦を続けてゆきます。

工学院大学
note

活躍する卒業生

大阪・関西万博の照明デザインの ディレクションを担当

—— 反骨心と挑戦する精神が自らの人生を押し進めると信じる



LIGHTDESIGN 代表
照明デザイナー
東海林弘靖 氏
1984年 建築学専攻修士課程修了



#KUTE VOICE
エンジニアリーダ
たちの声

WEBで各業界で活躍する
先輩たちのメッセージを公開中

附属中高NEWS

オーストラリアと インドネシアで海外実習



附属中学校の3年生が8月、探究学習の集大成として海外異文化体験研修を実施しました。先進クラスはオーストラリア・アデレード近郊でホームステイを行い、現地校での授業や交流を通して多様な価値観に触れました。一方、インターナショナルクラスはインドネシア・バリ島で「Mission on the Ground (MoG)」に初参加し、地域課題に向き合うプロジェクト型学習に挑戦。生徒たちは自ら立てた問いをもとに現地の人々と協働し、主体的に学びを深めました。異文化理解にとどまらず、課題発見・解決力を養う実践探究型の学びとして、大きな成長の機会となりました。

教職員だより ①

大阪・関西万博で 2つの展示に参加

—— ニューノーマルの暮らしをデザインする

建築デザイン学科 鈴木敏彦教授

大阪・関西万博に2つのプロジェクトで参加しました。ひとつは、2016年から携わってきたコンビニ知能化ロボットの展示で、未来のコンビニをテーマに会場構成を担当し、本学で特許を取得したトイレ清掃ロボットを出展しました。もうひとつは、旅人のように移動しながら暮らす“ニューノーマル”の生活を形にした「トランクシリーズ」です。来場者からは「欲しい」「このまま引っ越せる」といった声をいただき、大きな手応えを感じました。視察や展示で何度も会場に足を運ぶなか、縁あって各国のバビリオンにも入場。小学生だった1970年の大阪万博で、スイス館のチーズフォンデュを味わった記憶がよみがえり、55年ぶりに同館を訪れて白ワインで乾杯しました。皆さんもこの記事を読み出し、いつかどこかの万博を楽しむ日が訪れるかもしれませんね。



大阪・関西万博の設営を終えて

編集後記

学園広報誌「窓」を久しぶりに印刷物としてみなさまのお手元にお届けする運びとなりました。今年、本学園の象徴でもある新宿キャンパスは開設36年を迎え、学生・教職員の安全確保や周辺地域の防災拠点としての機能強化を図るため、高層棟のリニューアル事業が始動しています。そこには、2037年の創立150周年という大きな節目に向け、さらなる発展を遂げようとする強い意志が込められています。本学園に関わるすべてのみなさまのご支援に心より感謝申し上げるとともに、150年に向けた新たな挑戦がここから始まります。



学校法人工学院大学 常務理事
工学部電気電子工学科 教授
鷹野 一郎



工学院大学経営企画部 窓編集チーム
gakuen_koho@sc.kogakuin.ac.jp